

[血液内科]

[研修の目標]

血球異常の背景を理解し、鑑別に必要な検査を実施できるようにする。造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の診断・治療を経験し、免疫不全患者の感染症予防・診断・治療や、輸血・輸液管理など、化学療法の遂行に必要な全身管理能力を身につける。

[研修指導者]

内藤健助(血液内科部長)

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、日本血液学会指導医、日本輸血・細胞治療学会認定医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、浜松医科大学臨床教授、日本がん治療認定医機構認定医、臨床研修指導医

重野一幸(血液内科医長・化学療法科部長)

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、日本血液学会指導医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、浜松医科大学臨床講師、日本がん治療認定医機構認定医、臨床研修指導医

[研修コース]

当院内科ローテーションの一環として行う。

[研修指導体制]

指導医とのマンツーマン指導体制のもとに入院患者を受け持ち、その診療にあたる。病棟回診、病棟カンファレンスの検討会で症例を呈示し、討論して理解を深める。

[研修内容および到達目標]

(1)実習すべき主要疾患

鉄欠乏性貧血、急性白血病、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固症候群、再生不良性貧血、溶血性貧血、多発性骨髄腫

(2)研修すべき診断、検査法

血液検査(血算、血液像)、凝固検査、骨髄穿刺検査、骨髄生検検査、骨髄像、画像診断検査、腰椎穿刺検査、細胞性免疫検査、染色体・遺伝子検査 リンパ節生検と病理診断

(3)研修すべき治療法

輸液・輸血療法、抗生物質療法、化学療法、サイトカイン療法、造血幹細胞移植

(4)患者・家族から信頼されるコミュニケーションの取り方および応接、対応の習得